

国語科学習指導案

日 時：平成 27 年 11 月 12 日（木）第 6 校時

場 所：1 年 A 組教室

対 象：1 年 A 組（男子 19 名、女子 14 名、計 33 名）

授業者：教諭・大西 香織

1 教材名

根拠を明確にして書こう 意見文 「新しい国語 1」東京書籍

2 単元について

(1) 生徒について

ア 今年度岩手県中学校新入生学習状況調査及び質問紙結果から

領域別	本校	県	県比
話すこと・聞くこと	68.8	68.9	-0.1
書くこと	43.8	55.5	-11.7
読むこと	65.9	66.0	-0.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	75.2	-0.6
合計正答率	67.8	69.1	-1.3

・領域別「書くこと」の正答率が、著しく落ちている。

・小問 33 「書くこと」では、資料から読み取れることを具体的な根拠として示し、自分の考えと結び付けて記述できていなかった。

	質問事項	学校 (%)	思う	やや思う	やや思わない	思わない
36	「自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気をつけて書いていたと思いますか」	本校	19	72	9	0
		県	38	49	10	3

・質問紙 36 「書くこと」に関する質問への肯定的回答率は県とほぼ同じだが、「やや思う」の割合の方が多い。

イ 本校の学習アンケート結果から

質問事項	学年 (%)	肯定的回答	否定的回答
「自分の考えについて、理由や根拠を挙げることができる」	1 年	59	41
	2 年	83	17
	3 年	72	28

・理由や根拠を挙げる質問への肯定的回答の割合は、他学年と比較して高くない。

以上により、意見を述べる時は理由や根拠が必要であると分かっているにもかかわらず、説得力を持たせるための具体的な根拠としてとらえていないのではないかと考えられる。また、総合的な学習等の体験活動の感想記入において、熱心を書く生徒がいる一方、「何をどう書いていいかわからない」と書き出すことができず、「字数はどれくらい書かなければいけないのか」と書くことそのものに抵抗感を示す生徒もいる。

本題材の学習により、明確な根拠とはどういうものか、その根拠によって意見に説得力を増すことができるということを体験的に学ばせていきたい。

生徒は、解答がわかっているものには積極的に発言するが、自分の考えを述べることにはやや消極的である。少人数での話し合いは意欲的に取り組むため、話し合いを通じて、説得力のある意見文について考えさせていきたい。

関心が薄かったり取り組み方が分からなかったりすると意欲的に取り組めないことがあるので、日常生活と関連させ、生徒が関心の持てる話題の選択、簡明な発問や構造的な板書、小グループでの話し合いを取り入れることで、主体的に取り組めるように指導していきたい。

(2) 教材について

本題材は、中学校学習指導要領第1学年「書くこと」B(1)ウ「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くこと」とB(1)オ「書いた文章を互いに読み合い、題材のとりえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」をねらいとしている。

これまで、1年生の「書くこと」の学習として、「図表を使って伝えよう」では図表を使いながら段落の役割を考えて文章を構成することを学習した。本時の「根拠を明確にして書こう」では、根拠を複数あげながら、より説得力のある根拠とは何かを話し合わせながら意見文を書くことを指導していく。また、本単元は、1年生で「根拠を明確に」書くこと、2年生で「反対意見を想定して」書くこと、3年生で「観察・分析して」書くことをねらいとして系統的に配列している。

小学校との関連を見ると、小学校5年生と6年生で意見文の学習を行っている。5年生では、「賛成・反対の立場から意見文を書く」こと、6年生では、「書くことがらを整理して構成を考えて書く」ことである。

さらに、中学校1年生の本題材では、生徒に「論証（自らの主張について、それが正しいと見なされるべき根拠を示すこと）」の重要性を認識させ、その基本的な論証の仕方に慣れさせることを目的としている。論証の能力は、説得力のある意見文を書くために必須の条件であり、また国語科で育てなければならない論理的思考力の根幹となるものでもある。論理的思考力は、「読むこと」における論理的文章を読む力や、「話すこと・聞くこと」における説得力のある話し合いにおいても求められる重要な能力である。これからの現代社会を生きていく生徒にとって、欠かすことのできない能力であると言える。

(3) 単元の指導にあたって

単元を貫く課題解決的活動として、「新入生説明会の資料に入れる写真はどれがよいか」という活動を設定する。資料で扱う内容は、「学習」「行事1（体育祭）」「行事2（文化祭）」である。中学校生活一年間の大きな行事を経験した1年生も、今度は新入生を迎え入れる立場になる。新入生説明会は、例年、年明けに行っているが、10月末には、体験入部があり、小学校6年生が1回目の来校をしている。

そこで今回、「新入生説明会資料作成」を行うにあたり、次のような条件を設定した。

- ・資料は、新入生説明会で用いる資料である。
- ・新入生とその保護者に配布する資料に挿入する写真を決める。
- ・資料の文章・写真の候補は、教師が準備する。
- ・どの写真を挿入するかは、学校長・副校長に、1年生が書いた意見文を読んで決めていただく。

どの写真を選んだらよいか、根拠が明確な説得力のある意見文を小グループで検討させたい。「理由や根拠を述べる」ことを日常的に行っている、ともするとそれが「良いと思うから」「面白いから」という評価語になり、説得力のある根拠ではないことがある。また、その根拠が説得力を持つのかどうかということまで吟味することはあまりない。

「書く」ということに終わらず、小グループでの話し合いを通して気づいたことを生かし、もう一度書き直すということで、着実に「書くこと」の力をつけることができる考える。「根拠を明確に」という観点を明示し、小グループで話し合わせることで自分の根拠を見直し、改善することに取り組ませたい。

根拠を書くにあたっては、情報を収集・整理し、明確な根拠として用いることが必要である。意見文の吟味においては、「根拠が複数示されているか」、「具体的であるか」等のポイントを押さえ、客観的な根拠を明確に書くことができるように指導していきたい。

この学習に先だって、教科書に示されている練習問題も活用し、単元を通して、実生活で生きてはたらく国語の力を付けていきたい。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ① 互いの書いた文章を読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしようとする。【関心・意欲・態度】
- ② お互いの文章を読み合い、話し合うことで意見を述べ合い、根拠を明確にして、説得力のある文章を書くことができる。【書くこと】
- ③ 語句の辞書的な意味との文脈上の意味との関係に注意し、意見文を書くことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項】

(2) 単元の評価規準

ア：関心・意欲・態度	イ：書くこと	ウ：伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項
互いの書いた文章を読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。	①説得力のある意見文とはどのようなものか分かり、根拠を明確にして、意見文を書いている。 ②互いの意見文を読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。	意見文の文脈に即した適切な語句を用いて文章を書こうとしている。

4 単元の指導計画及び評価計画

時間	ねらいと学習活動 ◎ねらい ○学習活動	根拠を明確にして、説得力のある意見文を書くことができる。	評価規準	評価方法
1	◎説得力のある根拠とはどういうものか確認する。 ○「新入生説明会の資料に入れる写真はどれがよいか」考えることを知らせる。 ○「はじめの一步」に取り組み、説得力のある根拠について考える。 ○説得力のある文章とはどのような文章か、確認する。 ○「練習」に取り組み、説得力が増すように書き直してみる。	わかる できる	ア イ① ウ	観察 ワークシート
2 ・ 3	◎長所・短所を整理して立場を決め、根拠を明確にした意見文を書く手順を学ぶ。 ○「竹取物語」の冒頭部分の挿絵について、教科書を参考にしながら、根拠を明確にした意見文を書く手順を理解する。 ○「竹取物語」の冒頭の場面を確かめ、挿絵の役割について話し合う。 ○根拠としてそれぞれの長所、短所を書き出す。 ○長所・短所を小グループで確かめ、全体で理解する。 ○根拠を示すときの注意点や意見文の構成を確認する。 ○根拠を挙げて、どちらがよいと考えるか意見文を書く。	わかる わかる わかる できる	ア イ① イ② ウ	観察 ワークシート
4 ・ 5	◎根拠を明確にして、説得力のある意見文を書く。 ○提示された写真の特徴をつかむ。 ○根拠として用いることができる長所・短所を書き出し、整理する。 ○立場を決め、根拠を明らかにしながら200字程度の意見文を書く。	わかる できる	ア イ① ウ	観察 ワークシート
6 本 時	◎説得力のある意見文に必要な根拠の明確さなどについて、意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりする。 ○小グループで各自の意見文を読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめる。 ○根拠が明確な説得力のある意見文を、話し合いながら書く。 ○説得力のある明確な根拠について、まとめる。	できる わかる	ア イ① イ② ウ	観察 ワークシート
7	◎学習を振り返り、別の課題で、根拠を明確にして、説得力のある意見文を書く。 ○これまでの学習を振り返りながら、写真を挿入した場合を想定する。 ○教科書「課題」で、根拠を明確にして、説得力のある意見文を書く。	わかる できる	ア イ① ウ	観察 ワークシート

5 本時の指導

(1) 指導目標

説得力のある意見文について、互いの意見文を読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。【書くこと】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	「概ね満足である」と判断される状況(B) (評価方法)	支援を要する生徒への具体的な手立て
【書くこと】	互いの意見文を読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりしている。(観察・ワークシート)	写真の特徴をとらえた項目を見直させ、それが本文に生かされているか確認させる。

(3) 校内研究との関連

研究主題 主体的に学ぶ生徒の育成～「わかる」「できる」喜びのある授業について

1学年においては、「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて」題材を求め、「書くこと」の力をつけさせたいことから、「新入生説明会の資料に入れる写真はどれがよいか」という単元を貫く言語活動を行う。テーマを「学習」「行事1(体育祭)」「行事2(文化祭)」とし、それぞれについて2つの写真を提示し、それから一つを選ぶ。「説得力のある意見文」については、教科書を用いて学習し、根拠を明確にして意見文を書く手順を学ぶ。

「学習課題」は、まとめにつながるように設定し、自分で記述することで実感が伴うようにしていきたい。また、個で考えて意見文を書いてから、他の生徒と「学び合う」ことで、自分の文章を見直したり、他の書いたものを参考にしたりすることで、学習が深められるように展開していく。説得力のある意見文を書くことについて「そうか、こういうことが必要なんだな」という「わかる」、そして、「説得力のある意見文を書くことができた」「これからも書いてみたい」という「できる」を実感させていきたい。

(4) 本時の展開 は本校の研究に関わる手立てや工夫 (6/7)

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点及び評価(★)
導入	1 前時を想起し、本時の学習課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 机上に学習できる準備は整っているか。 同じ写真を選んだ者同士で、3人程度の小グループに振り分けておく。
3分	単元の学習課題 説得力のある意見文を書くにはどんなことに気をつければよいだろうか。 本時の学習課題 お互いの根拠には、どのような違いがあるだろうか。	明確な学習課題
展開	2 用いる写真の確認をする	<ul style="list-style-type: none"> 提示する。
	3 各自の意見文の根拠を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 写真の特徴は、前時までにとまとめている。 各自の意見文は前時まで書いておく。 根拠に傍線を引く。
37分	4 互いの意見文を読み合い、根拠の明確さ、説得力のある意見文について交流する 【小グループ】	<ul style="list-style-type: none"> 説得力のある意見文にするために、根拠に注目しながら交流させる。 根拠は明確であるか。 説得力のある意見文になっているか。
	5 話し合いながら、一つの意見文を書く 【小グループ】	<ul style="list-style-type: none"> ★【書くこと】(観察) 掲示用シートに書かせ、黒板に貼らせる。
	できる	学び合い
		教具の工夫

	6 意見文を発表し、交流する 【全体】	・発表の際は、スクリーンに投影する。
終 末 10 分	7 学習のまとめをする 【個人】【全体】 【学習のまとめ（例）】 ・説得力のある意見文には明確な根拠が必要である。 ・根拠は、複数示すと説得力が増し、比較することでその特徴が明確になる。 ・見直しをすることでより説得力のある意見文を書くことができる。 ・書いた文章を交流することで、自分の表現に役に立てることができる。 ・専門的な根拠を図表やグラフ・文に求め、引用するとよい。 ・接続語や段落構成の工夫をするとよい。	わかる ・文章で記述させる。 「〇〇さんの根拠は、～が…のように書かれていたので、説得力があった。」 ・発表させ、黒板にまとめていく。 生徒の言葉によるまとめ ・生徒の発言から出たこと以外からも、「明確な根拠」について提示していく。
	8 本時の学習を振り返る 【個人】 【振り返り（例）】 「自分の文章は～が足りなかったが、学習を通して…な根拠を挙げると、説得力が増すということがわかった。」	できる ・自分の変容や気づき、今後の学習に生かしたいことなどを文章で記述させ、発表させる。 ★【書くこと】（ワークシート）